

衆議院議員選挙 政策協定締結について

9月27日(月)第49回衆議院議員総選挙において、新潟選挙区第1区より立候補される西村ちなみ衆議院議員(立憲民主党)が、全港湾新潟支部への推薦依頼の為、来組され支部三役が対応しました。

冒頭、西村ちなみ議員より「この間の自民党政権は、森友・加計学園問題、桜を見る会や戦争法、公文書の改ざん含め悪夢のような政治を繰り返してきた。また、新型コロナウイルス感染症対策についても、抜本的な対策を打ち出さず、国民の政治への不信感が増すばかりである。今回の総選挙において健全な国民の為の政治を取り戻さなければいけない。その為にも皆さんの協力をお願いしたい。また、新型コロナウイルス感染症禍での選挙戦であり通常通りにはいかないが、感染対策をしっかり行い精一杯頑張りたい」と力強い決意表明がされ、鈴木委員長に対し推薦依頼書が手渡されました。

それを受け、鈴木委員長より、「現在全港湾が抱える問題や課題を前進させ、解決するためには議員の皆さんの力がどうしても必要になってくる。その中で、議員懇談会の設立がされるが西村議員にも力を貸していただきたい。私たちとしても、健全な政治を取り戻し、国民の為の政治を行ってほしい。その為にも精一杯応援させていただく。また、推薦する上で政策協定の締結もお願いしたい」との挨拶がされました。

西村ちなみ議員より、「物流は国民生活を支える上で欠かせないものであり、その最先端で仕事をしている皆さんの役に立ちたいと思っている。是非議員懇談会にも出席させていただきたい。政策協定についても締結させていただく」との返答がありました。

最後になりますが、新潟支部として中央方針の下、退職者の会三役と意見交換を行い「野党共闘を第1」に考え、候補者の推薦を行ってきました。総選挙に対し、我々の思いや声を届けてくれる議員が1人でも多く当選できるよう、精一杯取り組んでいきます。

全港湾日本海地方新潟支部
書記長 那須野 智広



鈴木龍一委員長へ西村智奈美議員より推薦依頼書が手渡される



石炭火力発電休廃止に係わる申し入れ



推薦依頼のご挨拶

政策協定書一部抜粋

- 1 全港湾の活動の基本である、平和憲法を護り、原発再稼働に反対し、港湾、運輸問題、平和運動、地域運動などの方針を理解する。その基で関係行政に対する取り組みを積極的に行う。
- 2 国民生活の安心、安全、安定した住民生活の確立の取組みを行う。
- 3 全港湾活動方針の理解並びに具体化にあたり、定期的に意見交換を行う。

お詫びと訂正

ブレイクタイム30号(2面、上から3行目、左から3番目)において表記に誤りがありました。ここにお詫びするとともに以下のように訂正いたします。

【誤】元木代議員(関西)
【正】元木代議員(四国)



石炭火力発電所
休廃止に係る

エネルギー庁 学習会開催

7月29日
小樽港湾センター



7月29日、小樽港湾センターで石炭火力発電所休廃止に係るエネルギー庁学習会をリモート形式で行いました。これまでに、地方執行委員会での報告や議事録で申し入れ等の経緯は把握しているものの、改めて知識を再認識・共有することを目的として開催しました。

総勢15名で行われた学習会では、舟橋課長補佐様より今後のカーボンニュートラルへの移行状況と既存石炭火力発電所の取り扱いについて説明を受けました。質疑応答では、「説明や情報開示の場が少ないと感じる。」「取扱貨物免許の関係もあり、石炭の取り扱いがなくなれば雇用ひいては会社自体が潰れる可能性もある。何か支援を考えているか。」などの質問がありました。エネルギー庁としては「雇用問題が発生した場合は他国の対策・支援状況を参考にしながらどのようなことが行えるのか、慎重に進めていきたいと思っている。今後も現地で働く皆さんの声をしっかりと聞いていきたい。」と答弁しました。変わりゆく情勢に対応が求められる中、労働者としての地位を確保しながら柔軟に対応していくためにも非常に有意義な学習会でありました。

学習会にあたって松永書記長にご助力いただきエネルギー庁との打ち合わせや、当日は北海道にお越しいただいたことによって円滑に進められたことに紙面を借りて感謝を申し上げます。

北海道地本書記次長
伊藤 勇武

石炭船PS



石炭荷役バケット



石炭積み込み



石炭積み込み



石炭バケット荷役

